遠山鹿子二編
文政辛卯子春新彫
種彦作
國貞画
おやぢ橋角
山本屋板
下
上
へ13
3810
4
へ13
3810
3

へ13
3810
3

門 へ13
號 3810
巻 3

御誂染
遠山鹿子

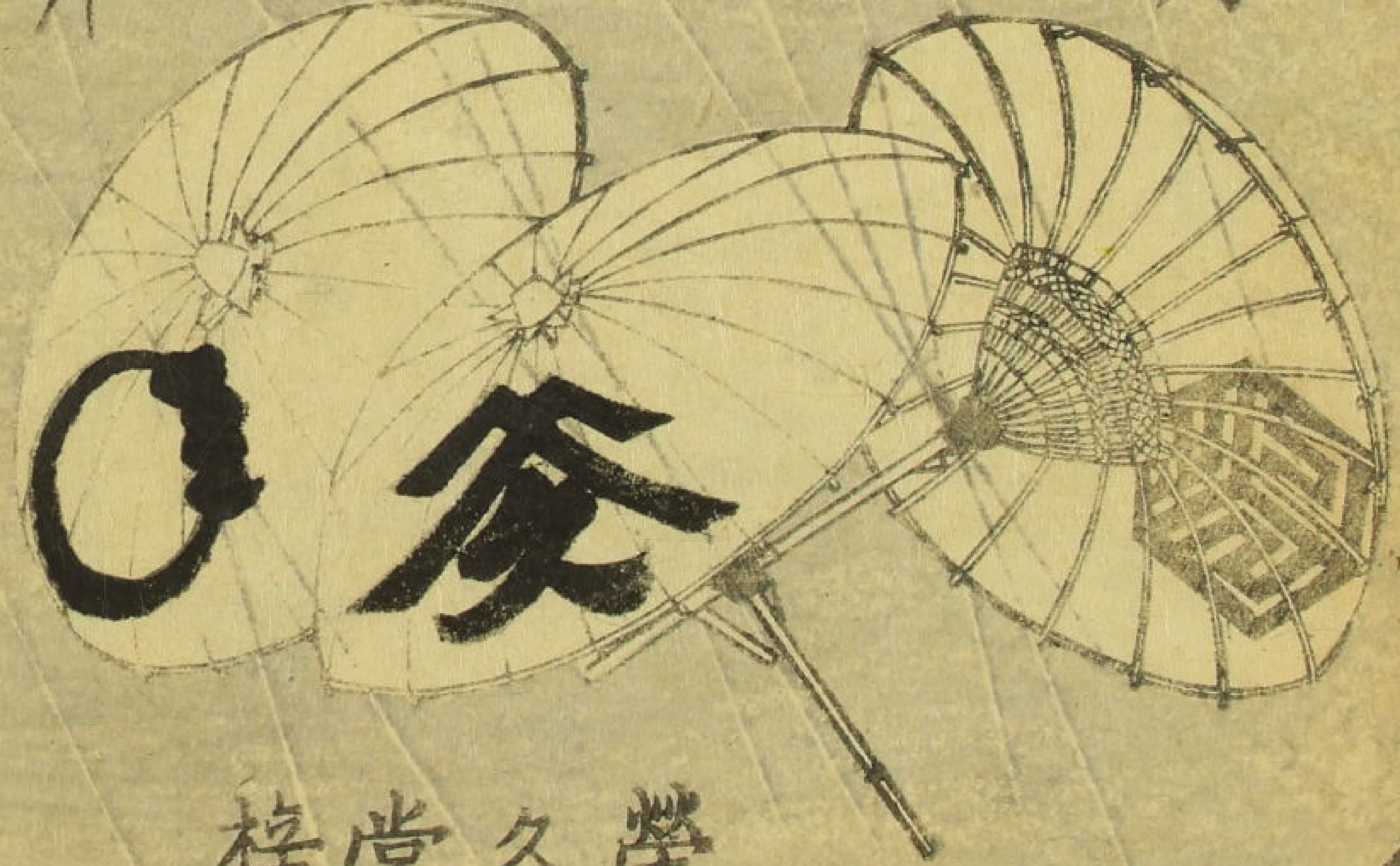
二編 上冊

柳亭種彦作

歌川國貞画

辛卯新彫

東都芳町 川岸



栄久堂梓

今棒づくしといふ唱哥にうたふ大津絵ぶしを初編の画題に載たりしが是に似たる曲子あり松の落葉古来中興踊り百番のうち第七番の大津追分絵とてありおふ抄出せる「二上り」のぼりくだりの目にはなく姿あまたある今の君よこれは追分のだるま絵鬼は夜のそげてもそう座頭もよくふ大ぶんえは猫が三線ひく酒のむ奴愛宕まゐりに袖をひかれさだてる鬼が寄るとまであらして大鳥毛浮世の甘いふんらんまんらんざんらん十三佛のはけ針の針いけのかね菅笠より棒に十露盤はふ関の清水はうき名所　此書宝永七年の印本なり古来中興とあれば宝永に新にあたてるにあらで古の踊うたなると論なし是によりて今の棒づくしは作りたる又暗合か此冊子に因ある曲子なればここに載て序にかへつるのみ

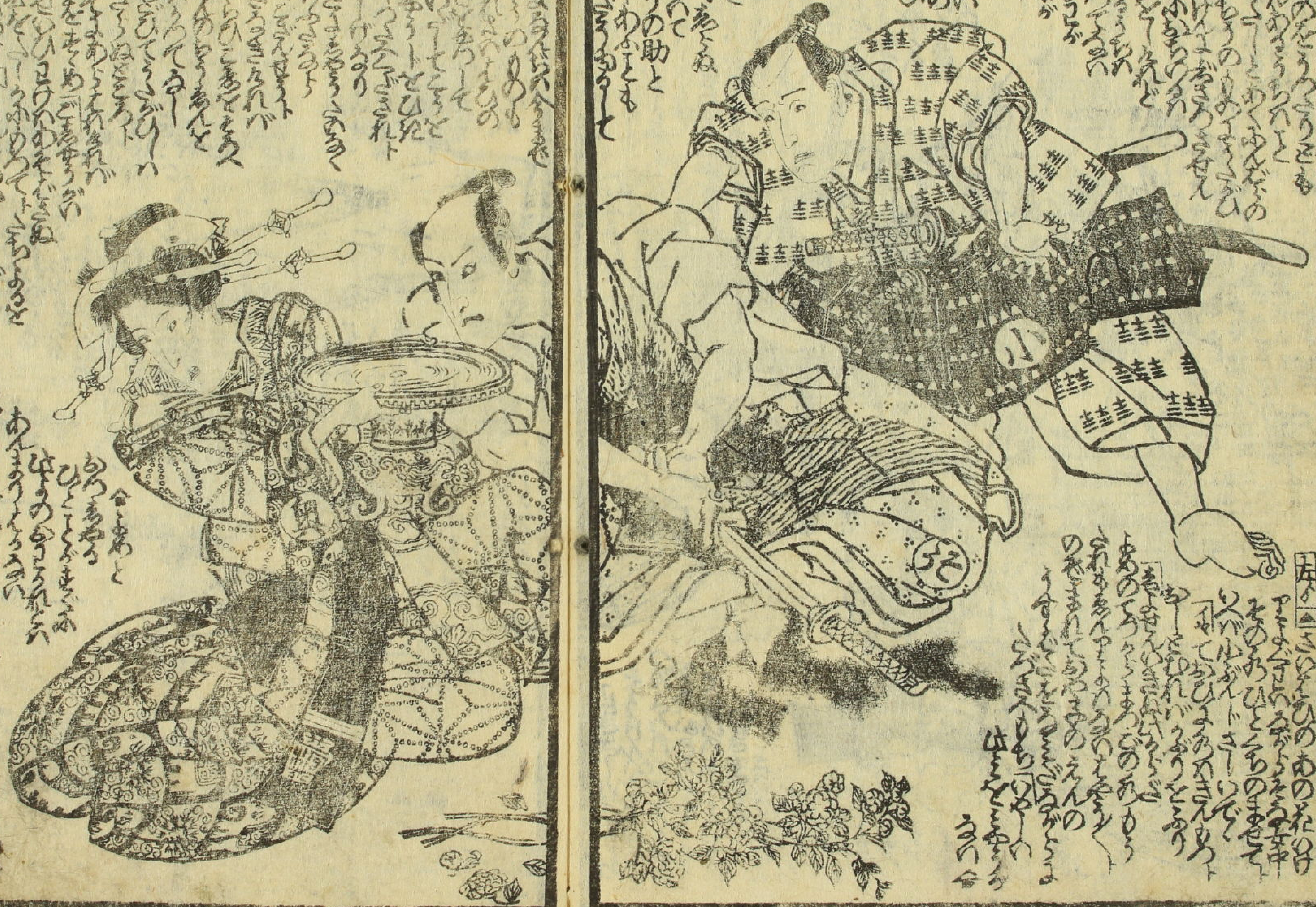
文政十四年辛卯孟陽　柳亭種彦記

又平娘
小春

三井寺の鹿
山上村
閻魔堂
守の老尼
麻生
願王

万葉
あらさらや
このて柄の
二面
阿野の
四郎次郎

音信
大津の
夜番
太郎助
實ハ 六角宇多之助



[illegible]

國貞画 種彦作

[illegible]

不破名古屋 誂染遠山鹿子 三編 四編 歌川國貞画

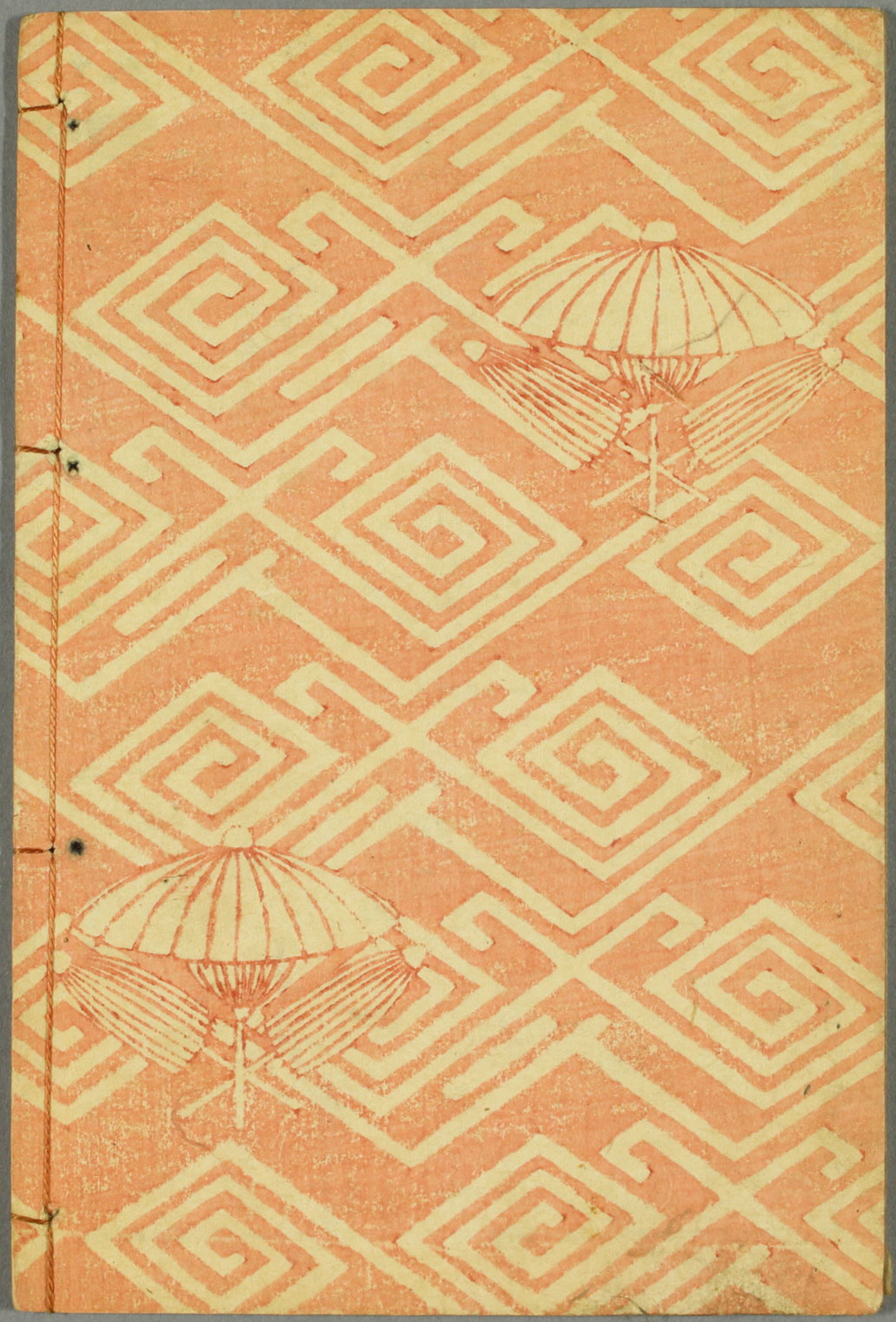
先年より賣出し御覧に入れたる初編二編ハ揚屋の場より山三が舘の半にして筆をとゞめたり今年あらたまる三編四編ハ名古屋がおもひの續より大津又平の住家に至れバ相かはらず御求めの程奉希ふ

小説梅花扇 全八冊 前北齋 爲一翁画

お好さま方もおぞんじの和藤内のその後に朱一貴といふつよい人六安王といふ悪王をころす事を扇の絵ざうしにあらはしたれどもちんぷん漢字をつかひ物知りめかしく作にはあらず狂言も淨瑠璃もさらに書合巻にこしらへバ御子様方もよみよく絵のもやうのめづらしき一の手ほん

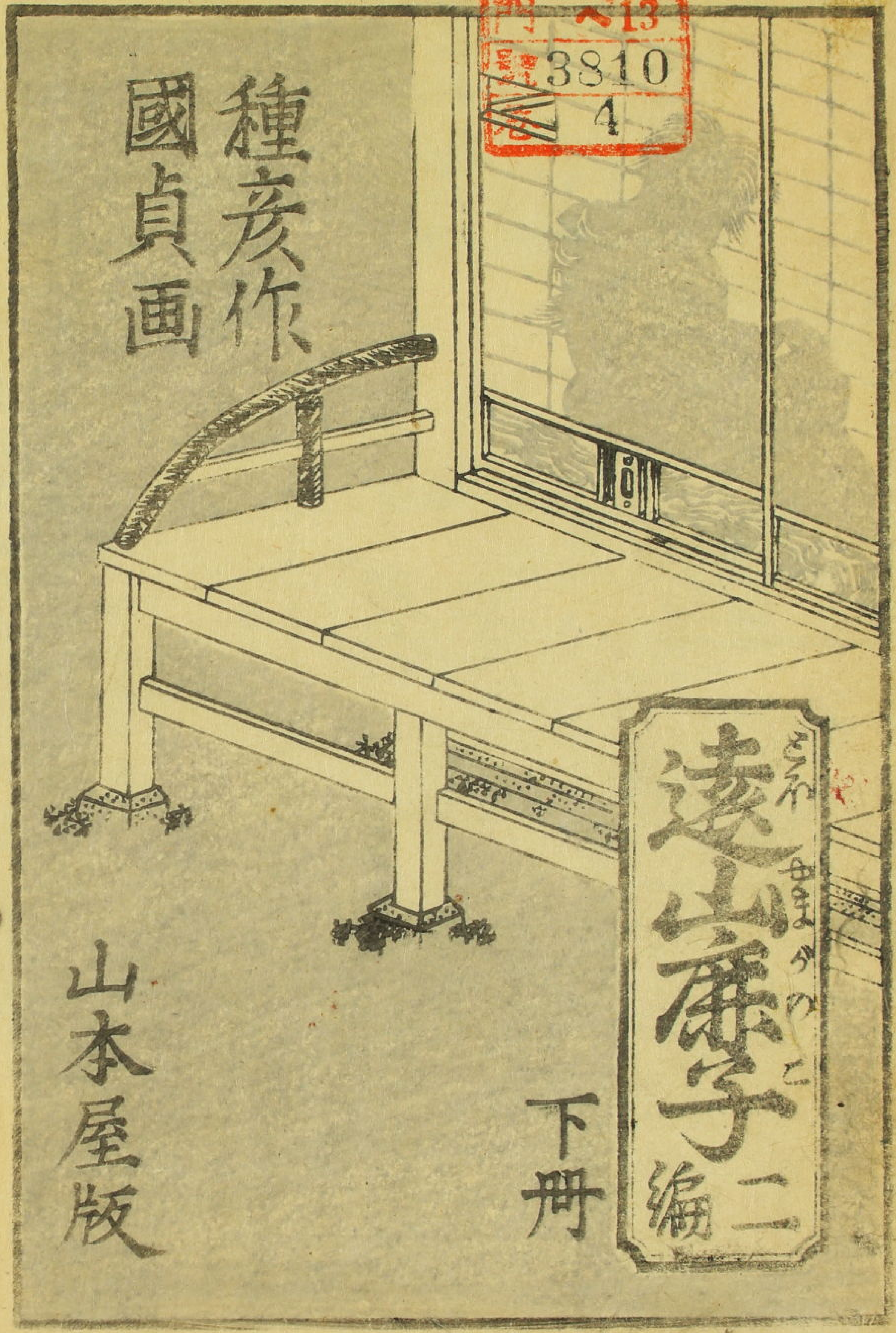
右両種作者 柳亭種彦

江戸よし町おやぢ橋角絵冊子向丸 山本屋平吉板



へ 13
3810
4

3810
4

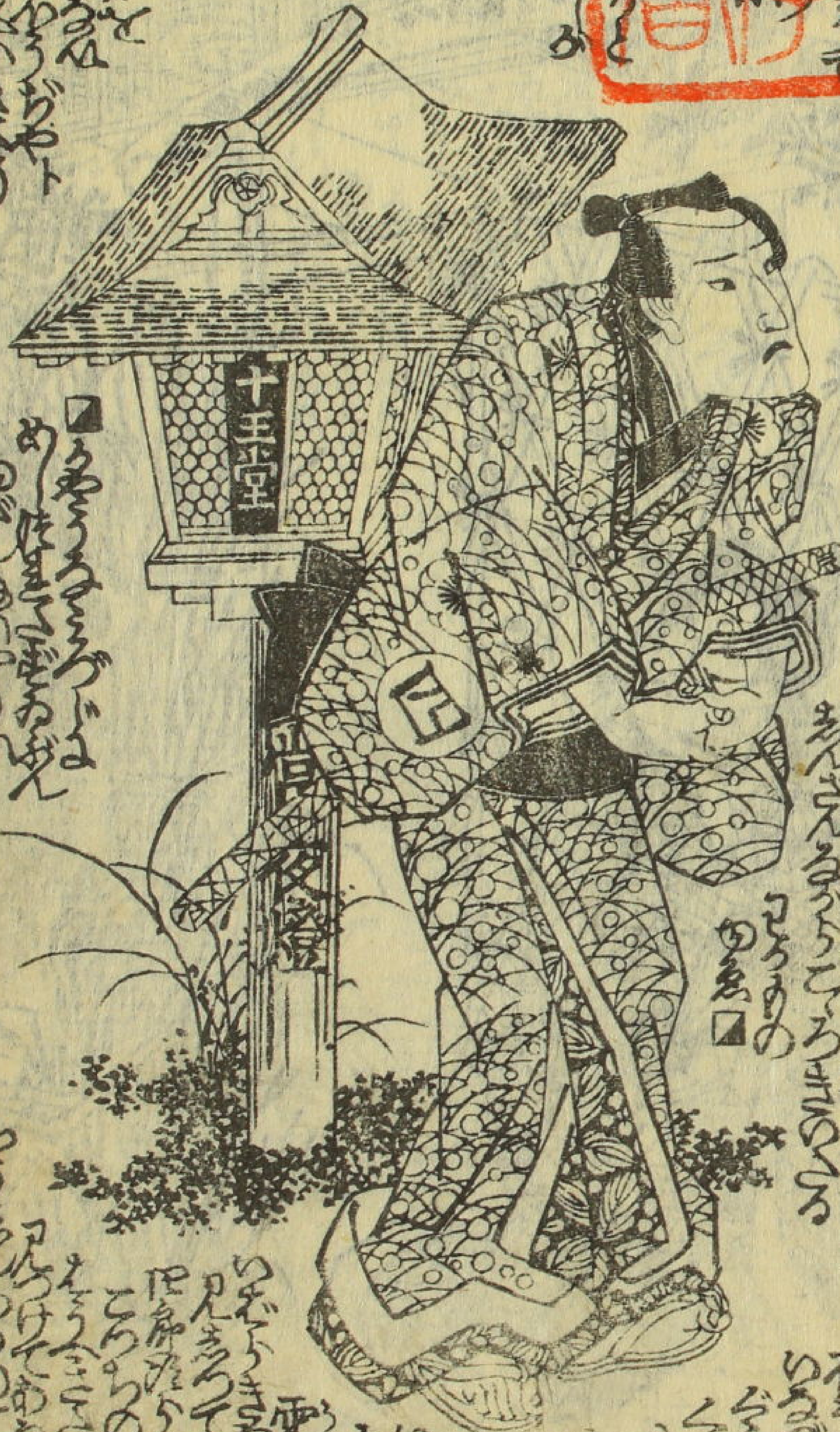


とん助ハやうぜんとあきれてゐたが、こゝでちやかしてハわるいとおもひ、いろ〳〵とこしらへごとをして、もうしびれがきれるまで、くどう〳〵とまうしわけ、よろ〳〵ずうずうときて、こゝでそのまゝおまへさんのおはなしをきゝまするに、わたしもおまへのおせわになりし身、さかしらに一ト通りおはなしいたさう、そのかはりそこにゐるのハおまへのおつれとやら、しばらくこれへござれ、よくきかつしやれ。いかにもこのきりもちのおかたハおさむらひさまのことゆゑ、ゑどのおやしきへおあがりなされたと見え、そのゝちおいとまをいたゞき、とかくこゝもとへもどりてまゐり、ひとりもんでまつてゐたれば、こゝへ来りしも、かへつてふしぎなえん、なにごともみなおまへのおかげ、これからハおこゝろやすくおたのみまうします

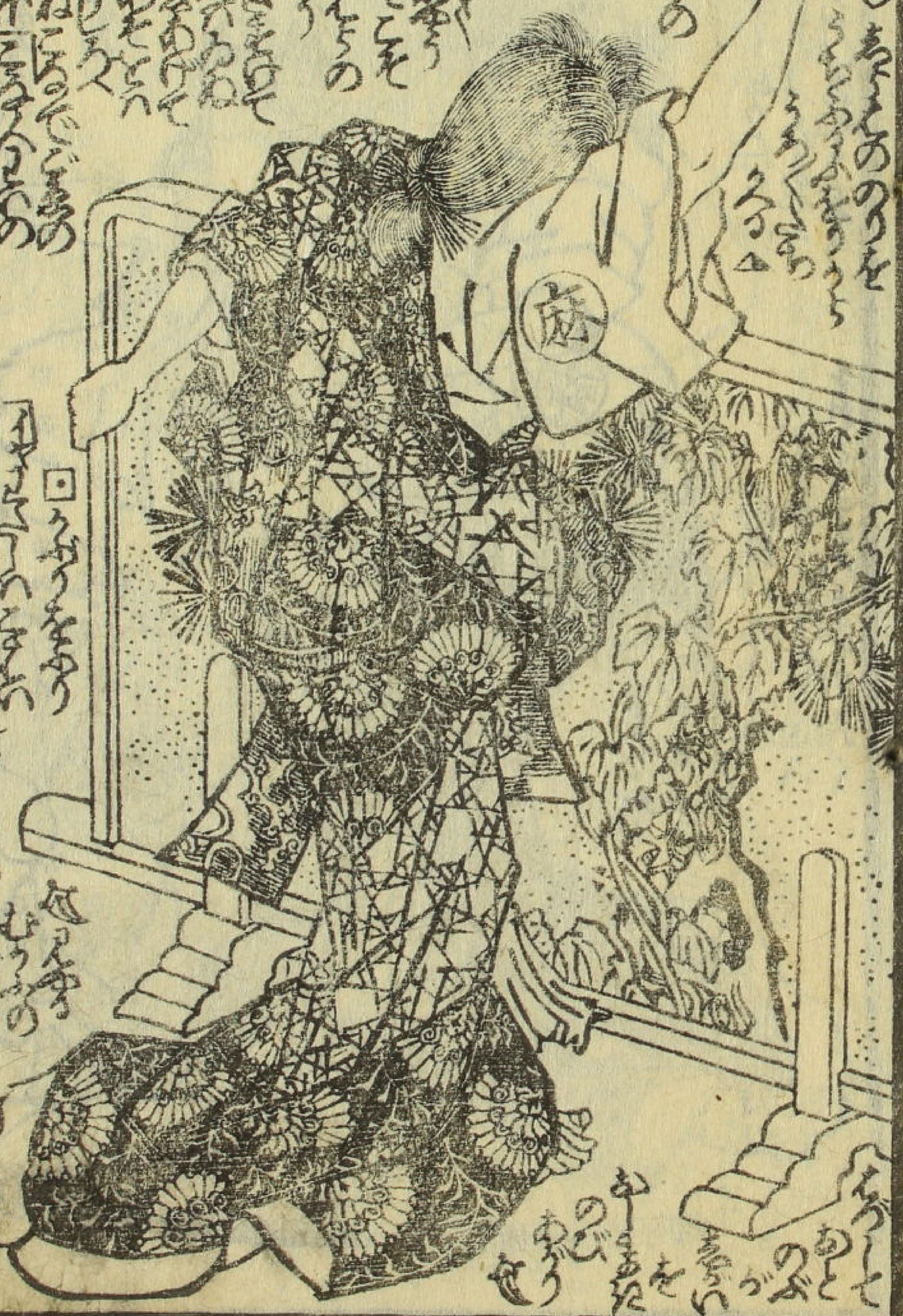
◎ヤレうれしや、しかしそれでハおまへさんのおこゝろざし、まことにありがたうござりまする。じつハそのおかたを、おそらくお見かけなされたこともござりませうが、このあたりのおとこだてにて、六十郎といふもの、これもきゝまするに、わたくしのあにのかたき、やどなしのことにて、七月十三日のばん、そのおかたのことをきゝおよび、ころしてのけたといふうはさ

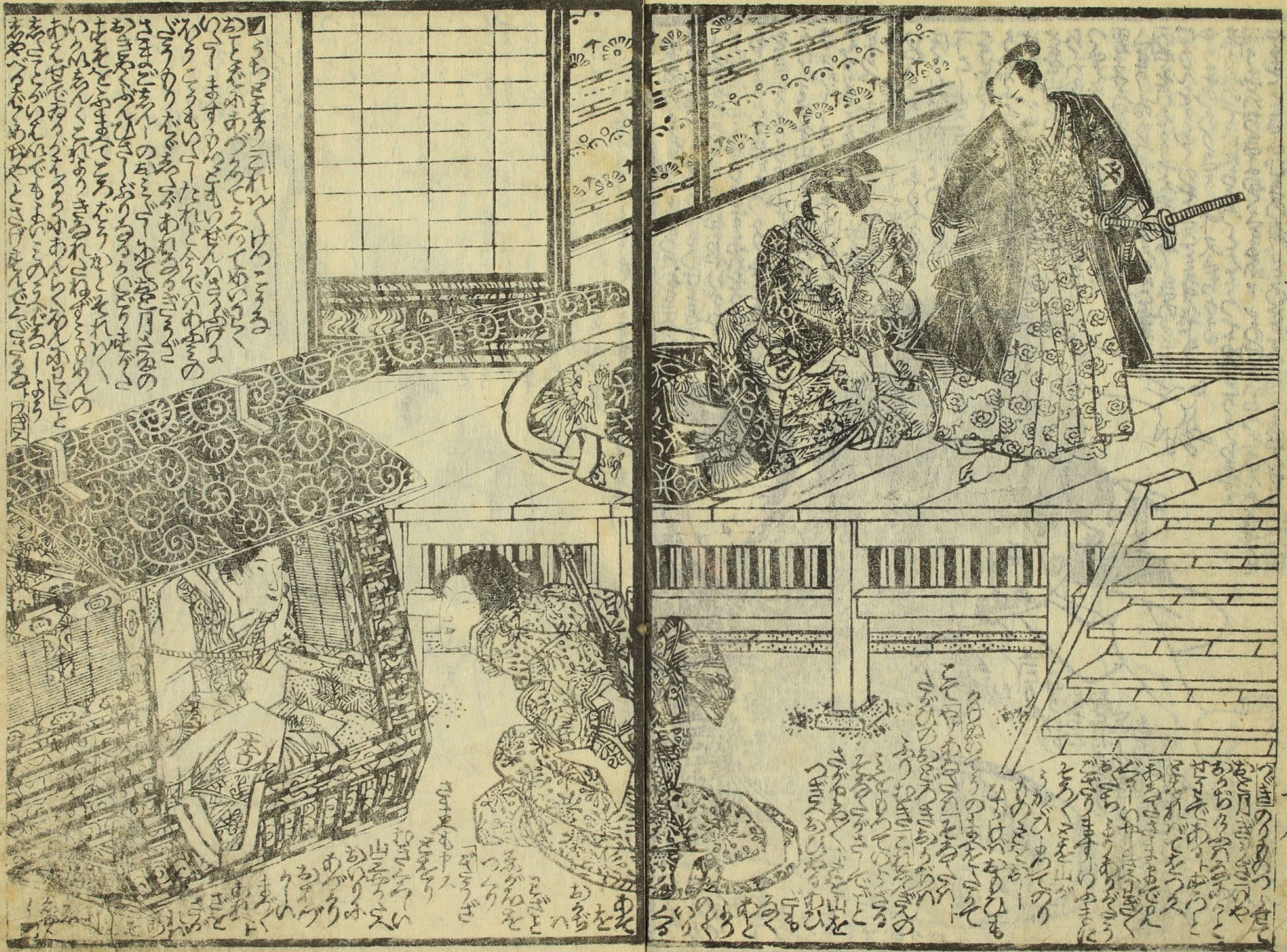
ころうあの男
◪ろくでなしめ、いまにぼうをくらはせ、うぬがつらのかはをひんむいてくれやう、おきつうひとりでさへ、さびしくおもふに、まつくらなやみのよに、みちをまよつてゐるといふハ

文六もさすがひよろ〳〵と、いふかほさきをきゝとがめ、あたりをよく見まはしてあるくが、八の字の、いふかとおもへバ、ハアさむい〳〵、こゝハいつたいどこだらう、あのどてのうへ、いぬがほえるばかり、雲ハかゝりてゐるが、こちらの、見あたらぬ、いつそおもひきつて、このまゝむかうへゆきませう、ちやうちんのあかりを、なにかよくさがしてまゐりませう（つぎへ）



山三の
六角の
いを
六角けちくのでいりハ





うちきどより「これハけうこそ
おとまいかあづかそへ入てゆいらく
いへ〜ますすかがとまいらせんかさうぶよ
わうこゝろもいへ〜たれども今でかわきの
ぶうのりだそあつさあれそのうぎこうざ
さまがごあん〜のちそて〜ゆそ宮月さまの
おきよくぶんひさしぶりあうなどうもあさ
なそとふさすまでてきるかとそれハ
いかれあんくこれよりきされされねずとのかんの
あそせでおろうかかおんらくかんかいてにと
あさてぶいそれでもよいこのまでるしよう
あやべるあちくもやさとげさんでくざりまする「つぎへ

つぎのりあのつ自ら
あと月さまがごやもいやく
おちおろう宮あそはへつとく
せずそであおとおつゝと
そまれぶくをつえ
「わまさまはまぶでえ
ぶゝいかはさのきく
あうちよりむりぐろう
ござりますのうまに
まつくさを山が
うかぶひゆてのり
ひめさまも
ひかばあれおもひも
うけぬそうのまゑをさそ
こそ「やれやさん「そあさんト
さがのあどろきおかうかれ
ふりむきこれかぎろの
まそりゆてのかふぎる
そろくろがさうでと
さがやあくさと山を
つぎおひひるのかむ
ぼくゆるくさもくりりる

四

戯場梗槩（かぶきのもくろく） 全十二冊 鶴屋南北作 五渡亭國貞画

唐人金鋲波 二人藻若菖 花鳥鯱糸山 三子傾城 吾妻花族縁裲襠 六冊 式亭虎之助作 同画

かゞの蛇三國志 二編 六冊 墨川亭雪麿作 歌川豊国画

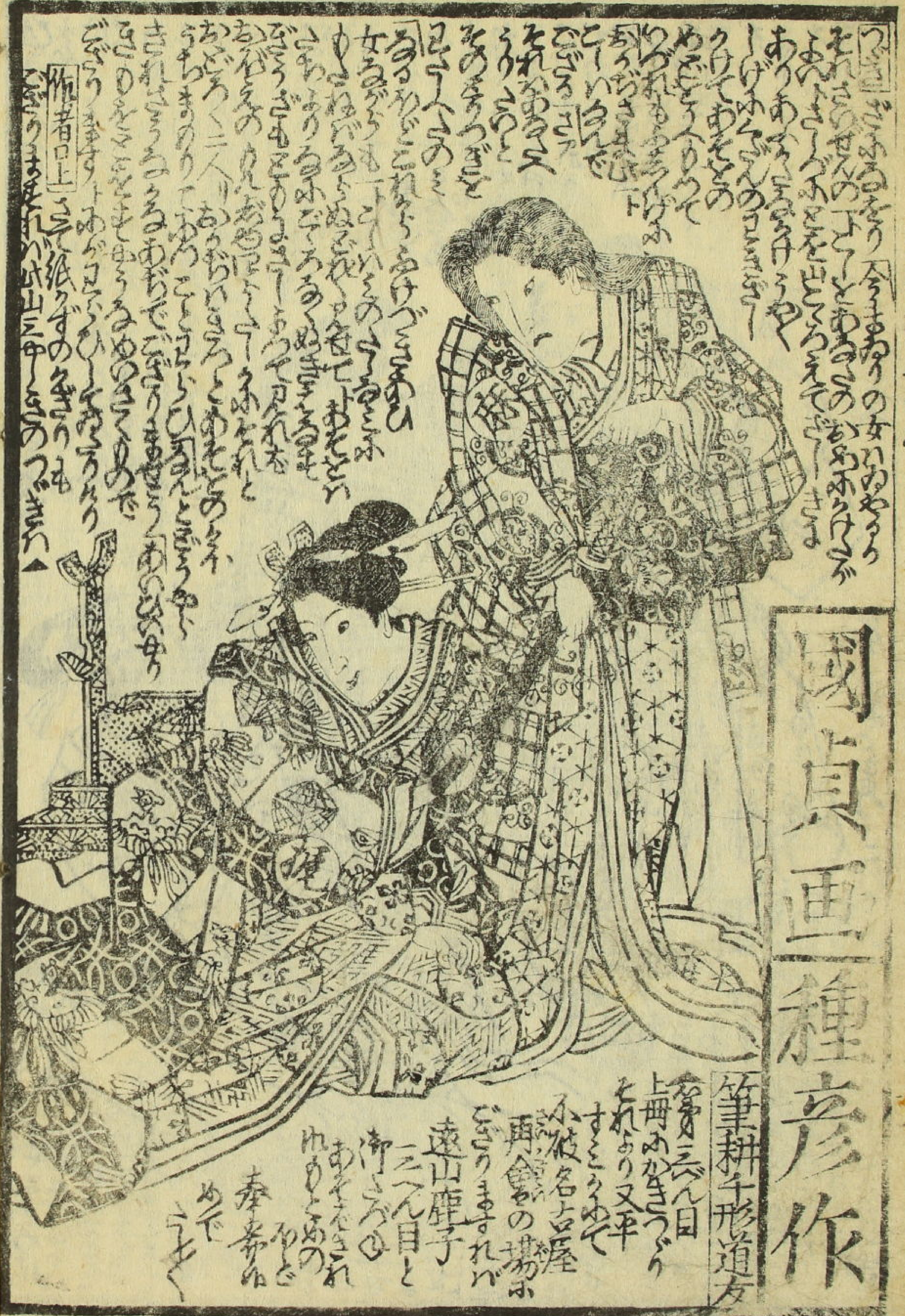
菊寿童後日盃 全六冊 山東庵京山作 香蝶樓國貞画

美艶仙女香 一包四十八銅 義太香 同断 坂本氏

風流列女傳 三編 六冊 墨川亭雪麿作 歌川豊國画

春霞ゆかしの廓 全六冊 五柳亭徳升作 歌川国芳画

梅暦魁草紙 全六冊 同作 歌川国安画

國性爺合戰 全六冊 雪麻呂作 歌川國虎画

江戸とうり町河岸親仁橋角
栄久堂 山本平吉板